

Studyaid^{DB} information vol.22

Studyaid D.B. 機能・操作マスター

Studyaid D.B.の「ユーザー問題作成」機能を使えば、オリジナルの問題を作成することが可能です。今回は、ユーザー問題を作成する際に使う機能や操作のうち、使い勝手がよい割にそれほど多くの方にお使いいただけていないものをご紹介します。

(2002年版以前の製品では、一部お使いいただけない機能があります。ご了承ください)

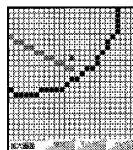
各機能には、レベルに応じて★をつけています。それぞれのレベル設定は以下の通りです。

- ★ … これだけは知っておいてほしい機能・操作
- ★★ … 覚えておくとかかなり便利な機能・操作
- ★★★ … 高度な機能・操作 (裏ワザ)

【★ 図形を正確に描画する】

図形を描く際、以下の機能を使えば正確に描くことが可能です。

- ① 線や図形の端点が、すでにある頂点や辺にうまく合わないとき
位置を決定するときにダブルクリックすると、拡大画面が表示されます。
画面中に表示されているドットを参考にして位置合わせをしてください。
- ② まっすぐに線を引きたいのにずれてしまうとき
Shiftキーを押しながら線を引くと、向きが水平・垂直方向に固定されます。



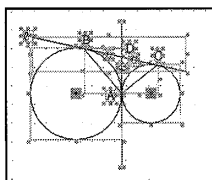
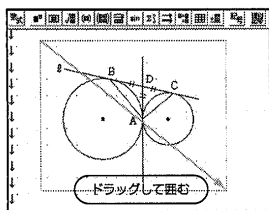
拡大画面

【★ 複数の図形を同時に扱う】

以下のいずれかの方法により、複数の図形を同時に扱うことができます。

- ① 対象となる図形をすべて含むようにドラッグして囲む
- ② Shiftキーを押しながら、対象となる図形を順に選択していく

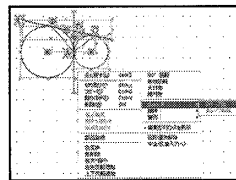
複数の図形が選択された状態での移動・変形・位置揃えなどは、選択されたすべての図形が効果の対象となります。また、この状態で右クリックメニュー内、もしくは画面下にある「グループ化」を行えば、以後は1つの図形として扱われます。(グループ化を解除する機能もあります)



複数の図形が選択された状態



右クリック



グループ化すると1つの図形になる

【★★ 図形やグラフの位置を微調整する】

描いた図形は、ドラッグによる移動や、矢印キー(←↑↓→)による微調整が可能です。

矢印キーでの移動は通常1ドットずつですが、Shiftキーを押しながらですと5ドットずつ移動します。関数グラフや図中数式で入力したのものについても、同様の調整ができます。

【★★ よく使う図形やグラフを登録する】

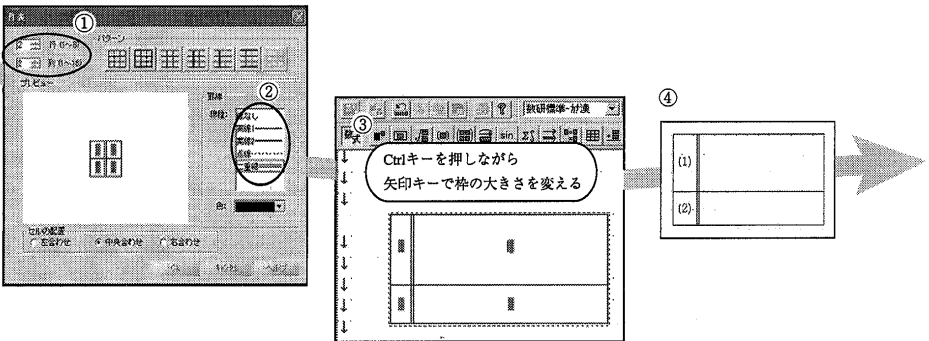
図形を選択した状態で右クリックすると、メニューが開きます。このメニューの中に「部品登録」という機能があります。よく使う図形をここで登録しておく、同じ図が必要になったときに作成しなおす手間が省けます。同様に、「座標登録」という機能でグラフの設定も登録することができます。

【★★ 表で解答欄を作成する】

「表を作る」機能を使えば、手軽に解答欄をつくることができます。

- ① 解答欄の数を決める（ここでは2行2列）
- ② 枠の線種を決める（部分的に線種を変更することも可能）
- ③ 必要に応じて枠の大きさを変える
（大きさを変えたい枠内にカーソルを移動させ、Ctrlキーを押しながら矢印キーで広げる）
- ④ 解答番号を入れて完成

図中数式モードで作成すると、完成した解答欄は図形扱いとなり、位置を自由に変更できます。



【★★★ 行列を利用して体裁を整える】

連立方程式や連立不等式の式の入力に行列を利用すると、見栄えをよくすることができます。連立方程式や連立不等式で …… ① などの式番号を入力すると、式によっては番号の位置がずれる場合があります。（下図参照）

このようなとき、行列を利用して入力すると、式番号をびったり揃えることができます。また、このように入力しておく、あとで式を変更しても番号の位置がずれことはありません。

〈行列〉のメニュー内から

「**等式**」を選びます。

このとき行列の各設定は

- 「行列の数」→ 2行2列
- 「行列位置」→ 左合わせ
- 「パターン」→ $\left\{ \begin{array}{l} \\ \end{array} \right\}$
- 「括弧表示」→ 左のみ

をそれぞれ選んでおきます。

$$\begin{cases} x-5 < 4x+2 & \dots\dots ① \\ \frac{x-1}{2} \leq \frac{3x+1}{4} - x & \dots\dots ② \end{cases}$$

上：通常の機能を使って作成した連立不等式（スペースで調節）

下：行列を利用して作成した連立不等式（式番号を2列目に）

1列目に式を、2列目に式番号を入力すれば、式番号の位置がきれいに揃います。

Studyaid D.B. を使いこなす

Studyaid D.B. はあるけれども使ったことがない。使っているけれども詳しくは知らない。そういう方のために、基本的な操作や便利な使い方などをご紹介します。今回は、検索、レイアウトした問題の文章や数式を編集する方法をご紹介します。

第4回 問題の中身を編集する

Studyaid D.B. に収録されているすべての問題は数値や文字を自由に変更することができます。この機能を「内容編集」といいます。

内容編集のしかた

①内容編集したい問題を左クリックして選択状態にする。

②選択状態で右クリックするとメニューが開くので、その中から内容編集を選ぶ。

(問題上でダブルクリックすることでも内容編集に入ることができます)

③問題作成エディタが起動します。以下、パターン別にご紹介します。

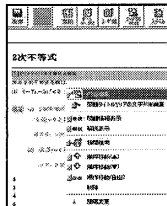
A: 文章を変更する
文章のボタンを押すと文章入力モードになり、文字を変更することができます。
(文章入力モード→下図A)

B: 数式を変更する
数式の上でダブルクリックすると編集状態になります。変更したい場所にカーソルを合わせてください。新たに数式を入力するときは数式のボタンを押して数式入力モードにしてください。

C: 図形やグラフを変更する
図形やグラフの編集を行うときは矢印の形をしたボタンを押して図形編集モードに入ります。
(図形編集モード→下図B)



A: 文章入力モードに切り替え
B: 図形編集モードに切り替え



内容編集の入りかた

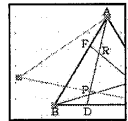


数式の編集

図形の位置を変えたいときは、図形を選択状態にして(左クリック)、ドラッグしてください。拡大や縮小は、選択状態のときに右クリックして表示されるメニュー内にあります。


図形を変形するには端点編集を行います。端点は増やすこともできます。

関数グラフについては追加や変更ができます。画面右のガイダンス内からお進みください。関数式をグラフの脇に入れたいときは、図中数式という機能を使います。図中数式で入力したものは画面上の好きな位置に置くことができます。図形に点や角の名前を入れるときにも使います。



端点編集

④変更内容を保存する

変更内容を保存するときは、画面左上にある右の図柄のボタンを押してください。(変更をとりやめて元の状態に戻すときは画面右上のを押してください)

右の画面では、ファイル名などを入力後、保存ボタンを押してください。

保存終了後、変更した内容が反映されます。



なるほど Studyaid D.B.

内容編集のたびに問題を保存するのは非常に面倒だ

→「保存せずに戻る」設定があるのをご存知でしょうか。

【設定の変更方法】

ツールバーにある 各種設定 の中の レイアウト・保存 のタブを選択する。

「問題単位で保存せず、Print用紙に反映する」のチェックをつけておくと、変更した内容がすぐに反映されるようになります。

注意！ 設定を変更すると、編集した問題をユーザー問題として保存することができなくなります。ユーザー問題として保存・利用したいときは改めてチェックを外してください。